

入院診療運営部

1. スタッフ（平成29年4月1日現在）

部長（教授）山本 博徳（兼務）
 副部長（教授）松村 正巳（兼務）
 （教授）細谷 好則（兼務）
 （看護副部長）大紫 幸子（兼務）
 幹事（教授）西野 宏（兼務）
 （教授）興梠 貴英（兼務）
 （看護師長）築瀬 順子（兼務）
 （室長）金子 操（兼務）
 （課長）賀川 則夫（兼務）

部員	病棟医長	35名
	看護師長	4名
	医療技術職技師	7名
	事務職	4名

2. 入院診療運営部の特徴

入院診療運営部は、入院診療における課題の抽出及びその解決のための方策についての検討等、入院診療に関して病院執行部の支援に必要な業務を行っている。

3. 実績

- (1) 病床利用率の向上に向けて
2月に行ったアンケートをもとに病床再編を行い、稼働率は前年を上回った。
- (2) 退院サマリーの作成向上について
退院サマリーに関しては、作成状況をチェックし、作成率向上のために支援した結果、退院2～3週間以内の完成率は、年間を通して90%を超えるようになった。
- (3) 看護職員夜間12対1配置加算取得に向けて
患者へのより手厚い看護と、病院の増収のために看護職員夜間12対1配置加算を算定することとし、病床再編を決定した。
- (4) 内科総合の創設について
多臓器疾患患者、未診断・診断困難患者、診療が困難な感染症の患者を診察し、問診、身体診察、臨床推論の基本を学ぶ場として、内科総合病棟を創設することとした。
- (5) 入院診療運営部に関する以下の委員会からの報告を受けた。
 - ① 輸血療法委員会
 - ② 栄養管理委員会
 - ③ NST運営委員会
 - ④ 褥瘡対策委員会

4. 2017年の目標・事業計画等

- (1) 看護職員夜間12対1配置を実施し、また内科総合病棟を軌道に乗せ、全内科協力体制を強化する。
- (2) 病床稼働率は病棟や診療科によりバラつきがあるため、稼働率をより向上させるため、病床のグループ化について検討し、実施する。
- (3) 退院サマリー完了率を引き続き高水準で維持する。